

令和4年度八尾市障害児保育審議会関係資料

令和3年度～ 実施報告

1. 乳幼児健診実施状況
2. 母子保健事業実績
3. 母子保健事業体系図
4. 子育て総合支援ネットワークセンター「みらい」児童家庭相談の状況
5. 子育て総合支援ネットワークセンター「みらい」親子教室参加者の進路等
6. 保育所（園）の保育サポートに関する相談
7. 市立医療型児童発達支援センターにおける療育等の状況
8. 八尾しょうとく園の状況
9. 私立認定こども園等障がい児保育実施状況
10. 市立こども園・保育所障がい児保育実施状況
11. 障がい児の保育施設入所状況
12. 教育センターにおける相談件数等一覧
13. 障がい児保育実施状況

乳幼児健診実施状況（令和3年度）

	対象児	受診児	受診率	最終把握率
4か月児健康診査	1814	1741	96.0%	100%
1歳6か月児健康診査	2011	1924	95.7%	100%
3歳6か月児健康診査	2104	1950	92.7%	100%

4か月児健康診査 要フォロー児の内訳
※結果が「要経観」「要精検」「要治療」

実：259人（フォロー率：14.9%）

方針	延べ人数
経過観察健診	38
電話	47
訪問	5
保健師フォロー	18
他機関フォロー中（みらい（その他））	5
乳児後期健康診査にて確認	3
あなたのまちの健康相談	72
精密検査	31
既医療	48
延べ件数	267

1歳6か月児健康診査 要フォロー児の内訳
※結果が「要経観」「要精検」「要治療」

実：381人（フォロー率：19.8%）

方針	延べ人数
経過観察健診	18
発達相談	48
電話	201
訪問	1
保健師フォロー	36
他機関紹介（みらい家庭児童相談）	1
他機関紹介（いちよう学園（外来保育））	2
他機関紹介（その他の他機関）	1
他機関フォロー中（いちよう外来保育）	3
他機関フォロー中（みらい（その他））	8
他機関フォロー中（みらい家庭児童相談）	4
保健師フォロー	1
あなたのまちの健康相談	4
わくわく教室	29
精密検査	12
既医療	33
延べ件数	402

3歳6か月児健康診査 要フォロー児の内訳
※結果が「要経観」「要精検」「要治療」

実：242人（フォロー率：12.4%）

方針	延べ人数
経過観察健診	6
発達相談	62
電話	39
訪問	2
保健師フォロー	22
他機関紹介（しょうとく園（入園））	1
他機関紹介（みらい（家庭児童相談））	2
他機関フォロー中（みらい（教室））	1
他機関フォロー中（みらい（家庭児童相談））	1
他機関フォロー中（みらい（その他））	7
他機関フォロー中（子ども家庭センター）	3
他機関フォロー中（いちよう学園（外来保育））	1
他機関フォロー中（その他の機関）	1
あなたのまちの健康相談	2
精密検査	43
既医療	63
延べ件数	256

母子保健事業実績(健診とフオロ一教室)

事業名	平成29年度実績	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
4か月児健康診査	開催数	45回	42回	51回	38回
	対象数	1,937人	1,885人	1,766人	1,814人
	受診数	1,907人	1,835人	1,730人	1,741人
	受診率	98.5%	97.3%	98.0%	96.0%
	フオロ一率	25.5%	18.4%	20.4%	15.8%
1歳6か月児健康診査	開催数	36回	35回	33回	36回
	対象数	2,028人	2,010人	1,825人	2,011人
	受診数	1,954人	1,949人	1,770人	1,924人
	受診率	96.4%	97.0%	97.0%	95.7%
	フオロ一率	26.5%	21.2%	24.1%	19.8%
3歳6か月児健康診査	開催数	24回	24回	22回	29回
	対象数	2,067人	2,054人	1,879人	2,104人
	受診数	1,940人	1,929人	1,737人	1,950人
	受診率	93.9%	93.9%	92.4%	92.7%
	フオロ一率	15.7%	14.3%	11.4%	12.7%
乳幼児精密健康診査(医療機関委託)	受診数	178人(視聴覚含む)	145人(視聴覚含む)	99人(視聴覚含む)	81人(視聴覚含む)
	受診数	1,801人 異常なし 1,609人 異常および異常の疑い 192人	1,669人 異常なし 1,505人 異常および異常の疑い 164人	1,763人 異常なし 1,611人 異常および異常の疑い 152人	1,716人 異常なし 1,526人 異常および異常の疑い 190人
乳幼児後期健康診査(医療機関委託)	受診数	1,730人 異常なし 1,535人 異常および異常の疑い 195人	1,801人 異常なし 1,569人 異常および異常の疑い 232人	1,703人 異常なし 1,497人 異常および異常の疑い 206人	1,708人 異常なし 1,478人 異常および異常の疑い 230人
	予約数	450人(12回)	368人(12回)	177人(11回)	148人(12回)
経過観察健診(身体)(再掲・未熟児)	受診数	386人(66人)	307人(40人)	161人(22人)	138人(15人)
	予約数	540人	544人	500人	515人
経過観察健診(心理)	受診数	514人(36回+個別)	523人(36回+個別)	476人(36回+個別)	497人(88回+個別)
	参加実人数	127人	111人	107人	個別対応
1歳6か月児健康診査フオロ一教室(びよんびよん教室)	参加実人数	576人(48回・6回×8クール)	486人(48回・6回×8クール)	460人(41回・6回×8クール)	個別対応+7人
	参加延人数	対象:要経過観察児	対象:要経過観察児	対象:要経過観察児	対象:要経過観察児

出生数	1,979人	1,895人	1,966人	1,898人	1,890人
-----	--------	--------	--------	--------	--------

八尾市母子保健事業体系図

母子保健指導

不妊不育相談
 母子健康手帳交付
 マタニティマーク普及啓発
 両親教室
 妊婦歯科健康診査
 産後ケア事業(H30年～)
 こんごちは赤ちゃん事業
 離乳食講習会
 一般栄養相談
 あなたのまちの健康相談
 電話相談

家庭訪問
 ・ハイリスク妊産婦
 ・新生児
 ・未熟児
 ・乳幼児
 ・長期療養児※
 ・身体障がい児※
 ・被虐待児
 ・育児不安等

障がい児(者)
 歯科予防教育

[予防接種]

一次健診

- 妊婦健康診査(16回)
(医療機関委託)
(※多胎の場合は、追加5回)
- 産婦健康診査(2回)
(医療機関委託)(H30年～)
- 乳児一般健康診査
(医療機関委託)
- 4か月児健康診査
- 乳児後期健康診査
(医療機関委託)

二次健診

- 経過観察健診(身体・発達)
療育相談※
- 他医療機関紹介
(乳幼児精検票発行)
- 1歳6か月児健康診査
(歯科健康診査を含む)
- 3歳6か月児健康診査
(歯科健康診査を含む)
- 療育相談※

連絡調整機能

- 児童虐待発生予防対策事業
(H17年～)
- ▽要保護児童対策地域協議会
▽子育てコーディネイター連絡調整会議
- ▽障がい児保育審議会
- ▽家庭支援推進認定こども園事業

他機関フォロー(教室・療育等)

- 医療型児童発達支援センター
(いちよう)
- 福祉型児童発達支援センター
(八尾しょうとく)
- こども総合支援課
わくわく教室
- 子育て総合支援ネットワークセンター-みらい
- 児童家庭相談
親子教室
- 認定こども園・保育所(保育サポート枠)
教育センター

その他の事業

- 乳幼児医療費公費負担制度
- 児童扶養手当
- ひとり親家庭日常生活支援事業
- ひとり親家庭医療費公費負担制度
- 母子家庭自立支援事業
(自立支援教育訓練給付金)
(高等技能訓練促進費)
- 特別児童扶養手当
- 障害児福祉手当
- 重度障がい者(児)医療費公費負担制度
- 重度障がい者介護手当
- 未熟児養育医療助成制度
- 小児慢性特定疾病医療助成制度※
- 育成医療助成制度
- 結核児童の療育医療助成制度※
- 不育症治療費助成事業※
- 特定不妊治療費助成事業※

子育て支援サービス

- つどいの広場
- 地域子育て支援センター
つながりセンター
- ショートステイ
- トワイライトステイ
- 病児・病後児保育
- 一時預かり(一時保育)
- 休日保育
- ママ・サポート
- 地域交流・園庭開放
- 地域子育て支援センター
- やおファミリーサポートセンター
- 放課後児童室
- 子育てパートナー派遣

※は保健所で実施

こども総合支援課

令和3年度 児童家庭相談の状況

<相談傾向>

- ・ 相談件数は全体的に増加傾向にあり、主な内容での分類としては、児童虐待相談が全体の約6割を占めている。児童虐待相談では、児童の発達課題や保護者の疾病等に起因するものも見られ、継続した支援や対応が必要なケースも多い。
- ・ 障がい相談の内容としては、軽度発達障がいやそのグレーゾーンであると判断され他機関より紹介されるケースや、児童の抱える課題が顕著になった保護者からの相談申し込みによるケースが多かった。また、こども園等での活動に適応しにくい児童について、こども園等が保護者に「こども総合支援課」を紹介し、相談に至るケースも見られた。

<保育サポートとの関係>

- ・ 令和3年度に、児童家庭相談から保育サポートにつながったのは10件、保育サポート対象児（在園児）の相談は31件であった。児童家庭相談から相談者は、ほとんどが継続して来所しているが、面接の頻度はケースにより異なる。
- ・ 来所ケースについては、保護者の話をききながら、子どもへの対応の仕方を具体的に助言し、必要に応じてこども園等を訪問し、子どもの集団での様子を見るなど、関係機関との連携を図り、支援を行っている。
- ・ 就学前には教育センターの就学相談を紹介し、入学後にスムーズに学校生活を送れるように支援を行っている。

<相談件数（実数）の推移>

年度	養護相談		保健 相談	障がい相談					
	児童虐待 相談	その他の 相談		肢体 不自由 相談	視聴覚 障がい 相談	言語発達 障がい等 相談	重症心身 障がい 相談	知的 障がい 相談	発達 障がい 相談
R1	766	96	10	0	0	73	0	7	81
R2	732	66	0	0	1	55	0	8	101
R3	734	63	0	0	0	75	0	13	136

年度	非行相談		育成相談				その他の 相談	計
	ぐ犯行為 等相談	触法行為 等相談	性格行動 相談	不登校 相談	適性 相談	育児・ しつけ 相談		
R1	0	0	33	10	1	89	19	1185
R2	0	0	48	14	1	73	13	1112
R3	0	0	59	15	0	133	17	1246

◆令和3年度親子教室参加者の教室終了後の進路等

(実人数)

令和4年4月の進路等	令和3年度参加教室※		計
	2歳前後児 (1歳児)	2・3歳児	
親子教室継続	4		4
認定こども園・保育所(園)			
(保育)	1	2	3
(教育)		19	19
(サポート保育)		2	2
私立幼稚園			
プレ幼稚園等	1		1
しょうとく園	2		2
児童発達支援	1		1
終了		2	2
その他	1		1
計	10	25	35

- ・教室終了後の進路確認(保護者より聞き取り)にて判断
- ・「終了」は、フォロー不要になり年度途中で終了したもの
- ・「その他」は転居、中断等
- ・R元年度実績から、内訳を教室別(ぱんだ・ポッポ)ではなく学年別に

◆親子教室参加者の他施設との交流事業

1. 保育所交流

(人)

	春	冬	計
			0
			0
計	0	0	0

※例年、親子教室参加者と公立保育所・こども園との交流をおこなっていたが、令和2~3年度は新型コロナウイルスの影響があり実施せず。

認定こども園・保育所（園）等の保育サポートに関する相談（令和3年度実施）

- ・認定入所担当課に保育サポートに関する問い合わせがあった時点での、児童の所属機関または関係機関について集計したものである。
- ・保育サポートに関する相談には、認定入所担当課の係員が対応し、他市からの転入や相談機関なしの場合は、適切な関係機関につなぎ、継続的な相談ができるようにしている。

（人）

所属機関・関係機関	入所児年齢					計
	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	
保健所						0
いちよう学園 通園			2		2	4
いちよう学園 外来			4			4
みらい 親子教室			3			3
みらい 家児相						0
保健センター			5			5
市内認可園			4	4		8
認可外保育施設等			1			1
しょうとく園			1	2	3	6
他市機関				1	1	2
その他（児童デイ）			16	2		18
所属なし			1		1	2
計	0	0	37	9	7	53

令和3年度 障がい児(保育サポート枠)の保育施設入所状況

(令和3年4月1日現在)

〈新規分〉

	申込数	入所数	その他の施設入所数等
公立	105(122)	21(23)	18(26)
私立		64(72)	
合計	105(122)	85(95)	18(26)

※()内の数値は令和2年度

〈年度別入所数(入所児童数は、3歳以上の保育施設入所児童数(受託除く委託含む))〉

	年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
保育サポート	新規申込数	102	86	105	122	105
	新規入所数	74	69	77	96	85
	継続数	120	124	117	116	127
	総入所数	194	193	194	212	212
総入所児童数		3,166	3,275	3,295	3,427	3,534

〈年齢別入所数(下段は保育施設入所児童数(受託除く委託含む))

		3歳児	4歳児	5歳児	合計
公立	保育サポート 児童数	12 (14)	18 (17)	19(19)	49 (50)
	入所児童数	171(168)	188(188)	194(224)	553(580)
私立	保育サポート 児童数	50 (56)	58 (53)	55 (53)	163 (162)
	入所児童数	1,001(970)	987(981)	993(896)	2,981(2,847)
合計	保育サポート 児童数	62 (70)	76 (70)	74 (72)	212(212)
	入所児童数	1,172(1,138)	1,175(1,169)	1,187(1,120)	3,534(3,427)

※()内の数値は、令和2年度

令和3年度 市立医療型児童発達支援センターにおける療育等の状況

1. 契約児の療育

(1) 契約状況

(令和3年度在籍児)

※途中退園児を含む

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
6	5	10	2	4	0	27

(医療的ケア児)

気管切開	鼻腔栄養	胃ろう	酸素吸入	人工呼吸器	導尿	人数 (重複あり)
1	3	1	4	0	1	10

(2) 療育内容

① 療育総合計画の作成

② 医師による診察

小児神経科 (週5回)、整形外科 (週1回)

精神科 (年3回) 歯科 (年1回)、耳鼻科 (年1回)、眼科 (年1回)

③ 保育、訓練 (理学療法、作業療法、言語摂食療法)、看護 (健康管理等) を以て保護者に対して療育指導及び相談など行う。

④ 外部専門職による指導

発達相談 (年間19回)、歯科衛生指導 (年8回)

(3) 卒退園児進路状況

府立東大阪支援学校	0名	府立藤井寺支援学校	0名
府立聴覚支援学校 (幼稚部)	1名	公立こども園	0名
私立認定こども園・保育園	2名	公立保育所 (柏原市)	0名
八尾しょうとく園	2名	転居	1名
死亡	0名	計	6名

2. 外来児の療育 (外来の対象児は ・入園を前提にした子ども ・卒退園児で継続して療育や経過観察を要する子ども ・諸機関から紹介または相談のあった子ども等)

(1) 保育外来

気づきの段階や育てにくさのある子どもの生活や遊びを豊かにすることで、保護者の子育て支援・指導を目的としています。原則として親子同室です。

① 人数と回数 総人数 59人 実施回数 631回

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人数	62	67	58	71	59
実施回数	511	676	683	770	631

② 紹介機関

保健所	保健センター	みらい	医療関係 他	退園児	その他	合計
1	41	3	4	3	7	59

③ 外来理由

訓練対象児 発達の遅れ	全般的な 発達の遅れ	対人・情緒	育児不安	言葉の問題	小集団の経験	退園児の フォロー	合計
4	30	10	0	12	0	3	59

④ 進路先

入園	しょうとく 園	児童発達 支援事業所	小学校	幼稚園	保育所等	在宅・転居	継続	合計
0	3	0	3	4	14	4	31	59

(2) 訓練外来

在宅の乳幼児、こども園、幼稚園、学校へ通園・通学する児童に対して外来によるリハビリテーション（理学療法、作業療法、言語摂食療法）を行っている

① 人数と回数

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
合計 (回)	1470	1603	2047	2220	2339
0～2 歳児 (人)	28	15	38	33	66
3～5 歳児 (人)	26	27	42	28	62
就学以降児 (人)	46	43	56	54	73
合計 (人)	100	85	136	115	201

② 所属

在宅	保育所 こども 園	幼稚園	しょうとく園	小学校	支援 小学部	
48	66	6	7	31	23	
中学校	支援 中学部	高校	支援 高等部	聴覚支援	デイサービス	計
3	7	3	5	1	1	201

3. 相談支援

《子どもの発達等に関する保護者からの相談、施設職員への支援》

(1) 保育に関する相談支援

相談者数	97 人	延べ回数	151 回
居宅訪問数	1 人	延べ回数	2 回
施設訪問者数	49 人	延べ回数	39 回
引き継ぎ	5 人	延べ回数	4 回
合計	152 人	延べ回数	196 回

(2) 訓練に関する相談支援

相談者数	75 人	延べ回数	99 回
居宅訪問者数	3 人	延べ回数	5 回
施設訪問者数	17 人	延べ回数	21 回
引き継ぎ	2 人	延べ回数	2 回
合計	97 人	延べ回数	127 回

4. 関係機関への職員派遣及び相談業務

(1) 八尾市保健所事業への派遣

- ・ 総合療育相談 年 回 (理学療法士・保育士)

(2) 保健センター 母子保健事業への派遣

- ・ 経過観察健康診査 (二次健診) 月 2 回 (保育士)
月 1 回 (理学療法士・作業療法士)

(3) 相談業務など

- ・ 保育所(園)、認定こども園、幼稚園、小学校への訪問による相談支援 (理学療法士、作業療法士、保育士)
- ・ 卒園児のフォロー (施設職員との引き継ぎ等)

(4) 住宅改造事業への派遣 (理学療法士・作業療法士)

- ・ 現場調査及び会議

(5) 補装具交付判定の為の相談 (理学療法士)

5. 認定こども園等との連携及び交流

(1) 公立こども園交流 (月 1 回程度、安中ひかりこども園)

※令和 3 年度も新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止

(2) 市立医療型児童発達支援センターを退園した児童の進路相談

(3) 保育所等在籍児の外来 (訓練・保育) 受け入れ

(4) 研修 (就学前施設職員対象)

6. 保育所等訪問支援事業

発達に弱さがあっても同年齢の集団の中で一緒に生活し、同じ経験をして成長してほしい、また保育所等訪問支援を受けることで安心して保育所等の利用ができるという保護者の思いを支え、施設職員が抱える支援方法への悩みに寄り添い、共に目標をたてたりアドバイスを伝えたりする

	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
人数	4	8	13	17	18
実施回数	52	55	69	111	122

7. 指定障がい児相談支援事業 (計画相談)

令和元年度末から開始。現状は新規の通所支援の契約児を対象にしている

8. 今後の課題

八尾市の障がい児支援の拠点としての役割をはたすために

- ・ 専門職 (理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等) の活用
- ・ 作業療法士、言語聴覚士の複数配置

- ・ 専門職（心理士）の配置と活用
- ・ 診療所機能の拡充
- ・ 保育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援の充実
- ・ 認定こども園・保育所・幼稚園の発達が気になる子どもとその家族支援
- ・ 職員の人材育成（専門領域に関する知識や資質の向上）

八尾しょうとく園の状況

令和3年度実績

	福祉型児童発達支援センター	
	定員	在籍（契約）者数
4月	68	64
5月	68	64
6月	68	64
7月	68	65
8月	68	65
9月	68	65
10月	68	68
11月	68	68
12月	68	68
1月	68	68
2月	68	68
3月	68	68
	延べ人数	795

※児童発達支援センター

児童福祉法に基づき、福祉型児童発達支援センターとして障がい福祉サービスを提供し、療育指導等を行っている。

令和4年3月時点

<クラス編成>	<児童数>
2～3歳児（すみれ組）	13人
3～4歳児（さくら組）	13人
4歳児（ふじ組）	14人
4～5歳児（きく組）	14人
5歳児（ひまわり組）	14人

※令和元年度より定員を68人に拡充したことに伴い、5クラスでの編成となっている。

※児童発達支援「こぐま組」は、市内の民間児童発達支援事業所の増加とセンター本体の利用ニーズの高まりにより、令和元年度からセンターに統合した。

令和3年度 私立認定こども園等障がい児保育実施状況

<p>1. 障がい児巡回指導 (専門講師による保育指導)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対象 加配保育士が配置されている障がい児 ・講師及び巡回指導回数・・・年間各1回 <p style="text-align: center;"> 桃山学院大学教授 安原 佳子 氏 武庫川女子大学准教授 鶴 宏史 氏 神戸常磐大学講師 松尾 寛子 氏 神戸親和女子大学教授 佐藤 智恵 氏 </p>
<p>2. 障がい児保育研修</p>	<p>◎ちゃいるどネット大阪研修 “障がいのある子どもと共に育つ保育講座” 講師 梅花女子大学 心理こども学部 伊丹 昌一氏</p> <p>◎幼児教育研修<特別支援教育・保育研修②> “愛着障がい・発達障がいの理解と愛着の問題を抱える子どもへの支援” 講師 和歌山大学 教育学部 教授 米澤 好史氏</p> <p>“愛着障がいのアセスメントと支援” 講師 和歌山大学 教育学部 教授 米澤 好史氏</p>
<p>3. 障がい児保育の実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・担任とサポート保育教諭、また他の保育教諭との連携を取りながらクラス運営を行っている。 ・「個別の年間指導計画」を立案し、月の指導案で個々の目標に沿う支援に努めた。 ・個別対応の中で、必要に応じて関係機関や専門機関と連携を取り、児童デイ等訪問に来てもらい助言を受け保育に生かした。 ・就学前児には、教育センターの「就学相談」を進めることにより、小学校入学に向けてスムーズに学校と連携できた。
<p>4. 他機関との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在園児についての相談等 医療型児童発達支援センター「いちよう」、子育て支援ネットワークセンター「みらい」、教育センター ・在園児の支援・・・児童発達支援事業所（通所・訪問支援） LITALIKO ジュニア ・・・・児童発達支援事業所（通所） コベル、ふたば。くじらかん （※コロナの為に懇談会はできなかった。） ・公立園の特別支援教育・保育コーディネーター会議に参加する。

<p>5. 在宅家庭支援 (親支援について)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各保育園・こども園の地域交流での親子支援 一時保育・保育園体験・園庭開放・子育て相談等で、発達に課題を持った子どもと保護者に対する支援や援助を行う。また、コロナ過で限られた交流の機会に、情報提供を行った。
<p>6. 保育現場における問題点及び課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス運営で保育環境を整えるために、担任と支援児担当保育士との話し合いを持つ時間の工夫をする必要がある。 ・サポート児だけでなく、パステルカラーの園児の支援と保護者対応が難しく、特に就学前児を教育サポートセンターに繋げる為の保護者へのアプローチが難しい。できれば、保護者対応時に専門機関の介入を希望する。 ・保護者の就労を保証する為に、保育時間の延長に対応する保育体制の確保をはじめ、様々な状況に対応できるように配慮する必要があるが、現実には人材確保が難しい状況である。 ・児童デイサービス事業所との連携の強化(支援内容が把握しにくい)

令和3年度 市立こども園・保育所 障がい児保育実施状況

<p>1. 障がい児保育の 実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導の実施 大阪府立生野聴覚支援学校 河内 清美 氏 ・特別支援教育についての研修に参加し、一人ひとりの子どもの発達や個性を理解し、主担任と支援担当者が共有・連携し育ちを支えた。 ・支援者担当者会議は定期的に行うと共に、行事前等必要に応じて行い、主担任と支援担当者で特別支援コーディネーターが、共によりよい支援の方法について話し合い、保育サポート児を含めた共に育つクラス運営についての検討も行った。 ・「個別指導計画」「個別の教育支援計画」を作成し、職員間で情報を共有し園全体で支援する体制づくりを行った。
<p>2. 他機関との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在園児の相談等 子育て総合支援ネットワークセンター「みらい」、医療型児童発達支援センター「いちょう」、教育センター（就学相談） ・医療型児童発達支援センター「いちょう」の施設支援を活用し介助椅子や介助スプーン等の使用方法の助言を受け、支援に活かした。 ・言語が不明瞭なことを悩んでいる保護者に、医療型児童発達支援センター「いちょう」の言語訓練を紹介することで、保護者の不安を軽減し児童の発達につながった。
<p>3. 在宅子育て家庭への 支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流「ひろば」 遊びの中で、障がい児や発達に課題をもった子どもと保護者に対する支援や相談援助を行い、他の子育て支援メニュー紹介等を通して見守っていく。 ・一時預かり保育利用者には、子育ての悩みを聞き取り受け止めるとともに手立てを一緒に考えていく。
<p>4. 保育現場における 問題点及び課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が社会とのつながり（就労など）を望まれることが多く、それを保障する為には、保育体制の確保をはじめ、様々な状況に対応できるように準備しておく必要がある。 ・主担任と支援担当者のそれぞれが、担当保育サポート児の障がいについての知識や専門性を高め、共通認識をもって取り組む必要があるが、話し合う時間がもちにくい。 ・インクルーシブ保育について研修等で学び、共通認識をもったうえでクラス運営をする必要がある。 ・保育サポート児だけでなく、配慮を必要とする子どもの特性を園全体で共有し、クラスカバーに入った時には、一人ひとりにあった支援ができるようにすることが大切だと考えるが、時間の捻出、人員確保が課題である。

特別支援教育コーディネーターの活用	<ul style="list-style-type: none">・支援担当者の悩みに寄り添い、具体的な支援方法を主担任・支援担当者と共に検討する。・保育サポート児の個別の指導計画等の書類作成時には、担任にアドバイスを行う。・特別支援教育コーディネーター会議の学習会で学んだこと（スモールステップの進め方等）を各園で活用した。・各園の支援者担当者会議の内容を共有し、自園の支援担当者会議に活用し保護者支援も含めた障がい児保育を進めた。
-------------------	---

令和3年度 教育センター 相談件数等一覧

<教育相談>

- ・一般教育相談…不登校、いじめなど、子どもの生活全般にわたる相談
- ・特別な教育的支援が必要な子どもの教育相談…家庭での養育、学校園での支援などの相談
- ・子育て支援…生活、学習など子育てに関する相談

*教育相談実施状況

相談種別	件数
① 性格・行動に関するもの	75
② 不登校に関するもの	97
③ 身体上の問題に関するもの	0
④ 発達や学業に関するもの	294
⑤ 進路に関するもの	196
⑥ 心理検査等	1
⑦ 言語に関するもの	3
⑧ その他	5
合計	671

*対象別件数

	所属	件数
幼児	保育所	11
	幼稚園	8
	認定こども園	129
	施設	22
	在宅	4
児童生徒	小学校	348
	中学校	144
	支援学校	2
高等学校	1	
その他		2
合計		671

*「②不登校に関するもの」の校種別件数

校種	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	その他	合計
件数	0	35	60	0	2	97

*「⑤進路に関するもの」のうち、就園就学相談件数の推移

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
就園	27	23	21	11	21	6	2	0	0
就学	111	140	144	173	176	190	185	192	188
(小学校)	85	109	111	145	146	151	158	176	170
(中学校)	26	31	33	28	30	39	27	16	18
合計	138	163	165	184	197	196	187	192	188

*面接場所

面接場所	センター	青少年センター	学校	幼稚園	保育所(園)	認定こども園	家庭	医療機関	専門機関	その他	合計
相談述べ回数	5577	49	1313	0	27	95	4	4	29	4	7102

*電話による教育相談年度別受信件数

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
件数	69	72	71	60	70	62	43	61	62

<さわやかルーム>

- ・心理的または情緒的な原因等によって、登校の意思があるにもかかわらず、登校できない児童生徒に対し、学校復帰を前提として、教育相談、学習支援や集団生活への適応指導を行っている。

*入級児童生徒数の推移

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
児童数	2	1	1	0	0	1	0	0	0
生徒数	9	14	10	10	12	8	9	4	7
合計	11	15	11	10	12	9	9	4	7
再登校数	10	13	9	8	9	7	8	4	7

<各種電話相談>

*青少年相談(進路相談を含む)年度別受信件数

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
件数	147	121	44	36	33	29	23	30	24

令和3年度 障がい児保育実施状況

1. 障がい児巡回指導	<ul style="list-style-type: none"> ・対象：保育サポート児 ・講師及び巡回指導回数・・・年間1回 <p>公立園</p> <p style="padding-left: 20px;">大阪府立生野聴覚支援学校 言語聴覚士 河内 清美 氏（5回）</p> <p>私立園</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">武庫川女子大学</td> <td style="padding-left: 20px;">教授</td> <td style="padding-left: 20px;">鶴 宏史 氏（4回）</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">桃山学院大学</td> <td style="padding-left: 20px;">教授</td> <td style="padding-left: 20px;">安原 佳子 氏（8回）</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">神戸常盤大学</td> <td style="padding-left: 20px;">准教授</td> <td style="padding-left: 20px;">松尾 寛子 氏（11回）</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">神戸親和女子大学</td> <td style="padding-left: 20px;">教授</td> <td style="padding-left: 20px;">佐藤 智恵 氏（9回）</td> </tr> </table>	武庫川女子大学	教授	鶴 宏史 氏（4回）	桃山学院大学	教授	安原 佳子 氏（8回）	神戸常盤大学	准教授	松尾 寛子 氏（11回）	神戸親和女子大学	教授	佐藤 智恵 氏（9回）
武庫川女子大学	教授	鶴 宏史 氏（4回）											
桃山学院大学	教授	安原 佳子 氏（8回）											
神戸常盤大学	准教授	松尾 寛子 氏（11回）											
神戸親和女子大学	教授	佐藤 智恵 氏（9回）											
2. 特別支援保育ゼミ	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバー <ul style="list-style-type: none"> 教育センター1名 こども施設運営課1名 公立こども園特別支援教育コーディネーター5名 保育教諭等6名（各公立こども園・医療型児童発達支援センター） 看護師2名 作業療法士1名 ・開催回数 <ul style="list-style-type: none"> 年間（全体会3回 巡回指導5回 施設見学3回 園内研究会1回） ・内容 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">全体会</td> <td style="padding-left: 20px;">（活動計画 巡回指導報告 グループワーク等）</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">巡回指導</td> <td style="padding-left: 20px;">自園以外に1園、巡回指導に参加し、支援方法などを学ぶ</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">施設見学</td> <td style="padding-left: 20px;">八尾市立医療型児童発達支援センター いちょう</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">園内研究会</td> <td style="padding-left: 20px;">保育サポート児に対する支援を観察し、参加者で討議を行う。</td> </tr> </table> 	全体会	（活動計画 巡回指導報告 グループワーク等）	巡回指導	自園以外に1園、巡回指導に参加し、支援方法などを学ぶ	施設見学	八尾市立医療型児童発達支援センター いちょう	園内研究会	保育サポート児に対する支援を観察し、参加者で討議を行う。				
全体会	（活動計画 巡回指導報告 グループワーク等）												
巡回指導	自園以外に1園、巡回指導に参加し、支援方法などを学ぶ												
施設見学	八尾市立医療型児童発達支援センター いちょう												
園内研究会	保育サポート児に対する支援を観察し、参加者で討議を行う。												
3. 障がい児保育研修	<ul style="list-style-type: none"> ①「感覚統合あそびについて」 <ul style="list-style-type: none"> 医療型児童発達支援センター職員（作業療法士）による研修 ②「乳幼児のことばの発達 摂食機能について」 <ul style="list-style-type: none"> 医療型児童発達支援センター職員（言語聴覚士）による研修 ③保護者とともに子どもの理解を深めるには <ul style="list-style-type: none"> 桃山学院大学 教授 安原 佳子 氏 ④愛着障がい・発達障がいの理解と愛着の問題を抱えるこどもへの支援 <ul style="list-style-type: none"> 和歌山大学 教授 米澤 好史 氏 												